

令和6年度全国学力・学習状況調査 結果の概要及び今後の取組

丹波市立氷上中学校 R6年12月

本年4月18日(木)、中学3年生を対象に国語・数学の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査が実施されました。その結果を分析しましたので、概要についてお知らせします。学校とともに学習や生活について考えていただく機会になればと思っています。

1) 調査の目的

- ①義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証しその改善を図る。
- ②調査全体の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ③学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2) 学力調査から見える成果と課題 及び 改善の方向性 調査結果〔全国との正答率比較〕

【国語】 全国平均と同程度でした

【成果】

- ・「話すこと・聞くこと」に関する問いは、全国平均とほぼ同等の結果である。少人数で話題を決めて話し合うことや、タブレットを活用した話し合い活動を継続し実施した成果だと考える。
- ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、特に、文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる問いは、全国平均を上回る。1年生時から常用漢字の復習漢字テストと、それに向けた取組を継続した成果だと考える。
- ・無回答率がすべての問題で低く、あきらめずに解答しようと取り組んでいる。

【課題】

- ・「文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるか、どうかをみる」に課題が見られる。2つの選択肢を選ぶ問いにおいて、片方のみ正答のケースが多く、もう一步深く読み取ることが必要である。
- ・「文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみる」に課題が見られる。言語事項に関する知識を必要とする問いにおいて、語句の係り受けを正しく見分けることが問われている。特に、修飾と被修飾関係に課題が見られる。
- ・「話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」に課題が見られる。3つの条件に合うように解答する問いにおいて、2つの条件は満たしているが、すべてを満たすことができていないことが多い。特に、会話の内容を理解し、自分の考えを具体的に示すことに課題が見られる。

【数学】 全国平均をやや下回りました

【成果】

- ・多くの問題で無回答率が全国平均より低く、「数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」という質問に対しても、前向きな回答をしている生徒の割合が全国平均より高い。日々の授業において、生徒の多様な意見を意義付けながら、生徒に新たな発見をもたらして、主体的に学習に向かうようにしている成果だと考える。
- ・A領域(数と式)において、基礎計算問題の正答率が一番高い。繰り返し、計算の反復練習を行った成果だと考える。

【課題】

- ・問題形式に関して、選択式、短答式、記述式のどの形式の問題でも全国の平均正答率を下回っている。特に、与えられた情報と既習の「知識・技能」を関連づけて思考し、数学的な表現・根拠を用いて自分の言葉で説明することに課題が見られる。
- ・B領域(図形)の「筋道を立てて考え、証明するやA領域(数と式)の「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること」に課題が見られる。特に、証明しようとしている事柄を仮定として用いてしまっている解答や、論理的な根拠を示していない解答をしている生徒の割合が高い。また、証明に必要な情報を整理し、根拠として活用できるものはどれか判断することに課題が見られる。
- ・D領域(データの活用)の「与えられたデータから最頻値を求める」ことに課題が見られる。最頻値という用語の意味など、数学的な用語の理解に課題が見られる。



【改善の方向性】

- ・引き続き漢字テストを実施し、少しでも書ける漢字を増やす。
- ・正しく読解する時間を増やし、集中して取り組むようにする。
- ・eライブラリの「読解スキル」問題など、小問題に取り組む機会を増やし、自分で考える力や文意を正しく読み取る力を伸ばしていく。
- ・ペアワークやグループワークで話す機会を増やし、他者の意見のキーワードをメモし、多角的に考える授業の工夫をする。
- ・古典や詩歌の分野の学習内容を見直し、基礎基本の定着を図る。

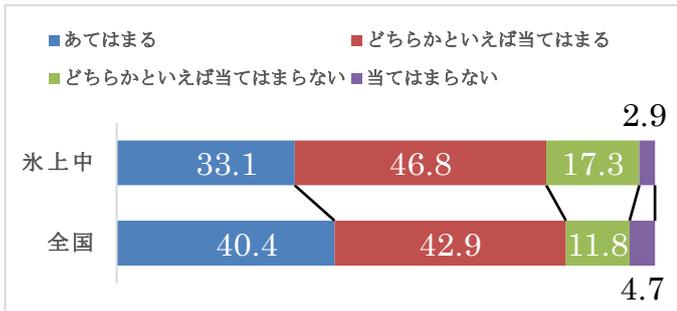
【改善の方向性】

- ・「学び合い」を軸とした授業展開を意識する。具体的には、「自分の考えを持つこと」の大切さを呼びかけて、個人思考の時間を確保し、交流することにより理解を深める。その中で、できるだけ「数学的な表現を使うこと」や「因果関係や根拠を明確にすること」を意識すること等により、数学を用いた正しい表現を身につけていくようにする。
- ・課題解決につながる情報を選択・判断・活用する力をつけるため、読解するポイントや既習事項との関連性を明確にし、丁寧に解説する。
- ・基礎計算の反復や既習事項の復習については、今後も小テスト等を継続的に実施し、数学的な土台形成を図る。
- ・答えの正誤だけでなく、生徒の粘り強い取り組みを評価することで、あきらめず取り組むことに対して、しっかり価値づけをする。

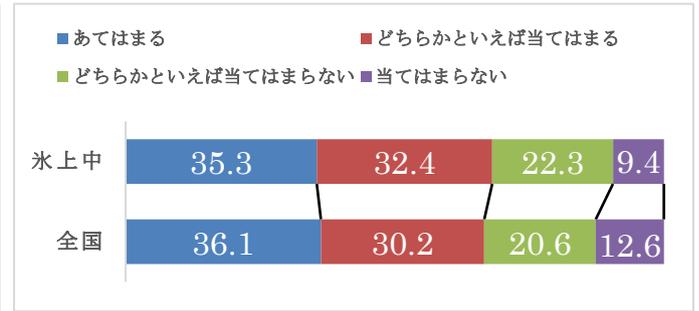
3) 生徒質問紙から見える成果と課題

自尊感情・自己有用感

①自分には、よいところがあると思いますか。



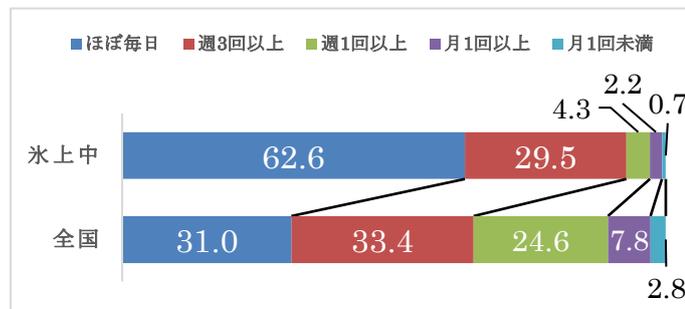
②将来の夢や目標を持っていますか。



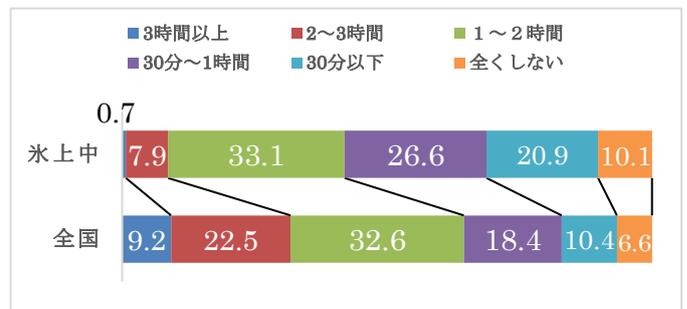
自分自身を肯定的にとらえている生徒、将来の夢や目標を持っている生徒は、全国平均とほぼ同程度でした。これからも学校教育(教科学習・キャリア教育・生徒会活動・部活動等)において、生徒の自主的・主体的な活動の機会を継続して確保していきたいと考えています。主体的に活動する生徒一人ひとりを応援し、利他性・協働性・社会貢献意欲など、人とのつながりによるウェルビーイングの向上を図ります。

学習習慣

③これまでPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。



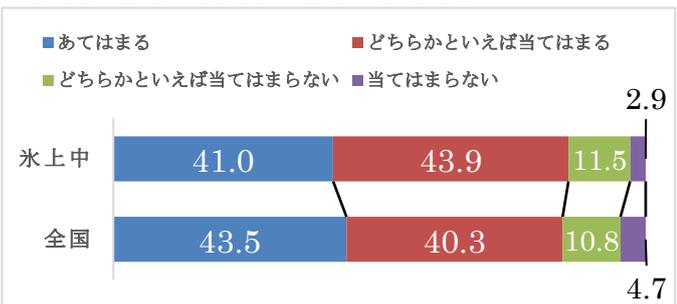
④普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。



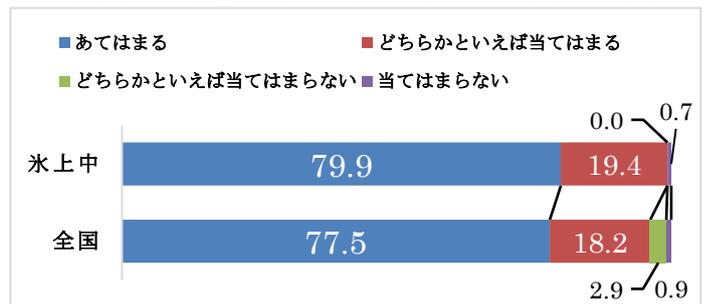
ICT活用の授業に転換しています。さらに効果的な活用を目指し、個別最適な学びと協働的な学びを推進していきます。家庭学習には、課題があります。学校での学びを継続し、自ら学びに向かえるよう学習習慣及び個別学習対策にも取り組みます。ご家庭においても、学習環境を整えることや、スマホ・ゲーム等の使用ルールの作成など、学習に向かえるようお子様の支援をお願いします。

生活習慣・規範意識・地域連携

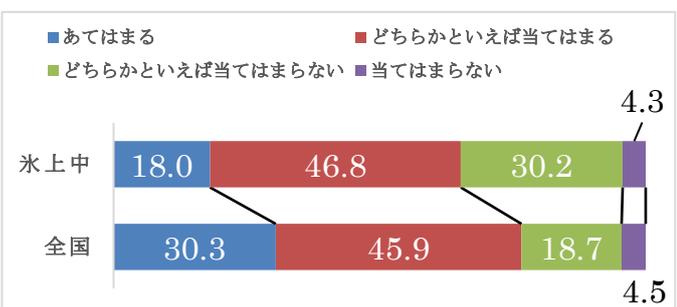
⑤学校に行くのは楽しいと思いますか。



⑥いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。



⑦自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。



85%の生徒が学校を楽しんでいると思います。これからも一人でも多くの生徒が、意欲的に活動し楽しいと思える学校づくりに取り組みます。

いじめは、絶対に許されません。生徒が安全で安心できる「居場所」としての学校の在り方をたえず見直し、あらゆる活動が主体的・自発的となるようコミュニケーションを大切にするとともに、自分と違う意見も受け入れるなど多様な価値を認め、他とともに大切にす